

# 大島支庁情報誌

第120号(R5.11)



「奄美群島日本復帰70周年記念 特別国民体育大会 相撲競技会での一場面」

- ◆ 奄美群島日本復帰70周年記念式典等が盛大に開催されました！ ……1
- ◆ 11月は「児童虐待防止推進月間」です。 ……4
- ◆ さとうきびの生産振興に向け、さとうきび勉強会を開催 ……5
- ◆ 祈り 踊り継ぐ 与論の十五夜踊 ……6
- ◆ 日本ジオパークを目指す喜界島で事務所職員による低山登山を実施！ ……8
- ◆ チームあまみOh!島の挑戦  
「奄美大島における課題解決に向けた大学の設立について」 ……9
- ◆ 知っておきたい！デジタル社会を生きる消費生活術 ……11

## 奄美群島日本復帰70周年記念式典等が盛大に開催されました！

大島支庁総務企画課地域振興係 主事 小久保 賢志

70  
Seventy in  
Japan  
奄美群島日本復帰  
70周年

11月11日(土)、奄美市で奄美群島日本復帰70周年記念式典・祝賀会(奄美群島日本復帰70周年記念事業実行委員会主催)が開催されました。

式典会場となった奄美川商ホール(奄美振興会館)は、国会議員や県議会議員をはじめ、県内外からお越しいただいた約1,000名の出席者で埋め尽くされ、写真集等で見る復帰当時を彷彿とさせる熱気に包まれました。



記念式典では、来賓として斉藤鉄夫国土交通大臣をはじめ、朝日健太郎環境大臣政務官、森山 裕 衆議院議員、塩田知事らが登壇されました。祝辞の中で、国土交通大臣は、「奄美群島は、現在も地理的・自然的な条件から様々な課題を抱えており、特に、人口減少や高齢化が進む中で、地域を支える人材の確保や、独自の自然・文化の継承は、今後の奄美群島の振興開発を考える上で避けることのできない課題である。」「今年度末に期限を迎える奄振法に基づく施策は、引き続き重要であり、国としても県や地元市町村などの要望を踏まえ、法案の検討を進めているところである。」「検討に当たっては、世界自然遺産に一体として登録され、地理的に近接し、歴史や文化などでも深いつながりを持つ沖縄との連携といった新たな観点を盛り込むなど、さらなる支援の充実を図っていききたい。」と述べました。



また、知事は、「世界自然遺産に一体的に登録され、歴史的、文化的につながりが深い沖縄との連携を強化するため、本年8月に、本県と沖縄県、奄美群島広域事務組合との間で連携協定を締結し、これに基づき、住民等の往来や農林水産物の輸送の円滑化、自然環境の保全、観光振興などの分野で、両者の交流の一層の拡大を図っていく。」「奄振法の延長、拡充を図るため、令和4年度に総合調査を実施し、振興開発の方向及び方策に



基づく各種施策を通じて、市町村等と一体となって、産業の振興と生活の利便性の向上を一層推進するとともに、鹿児島県の宝である奄美群島の更なる発展を図り、我が国の地域振興の先行地域となるよう、取り組んでいきたい。」と述べました。

式典中、印象的だったのは、群島各地の中高生による「未来へのメッセージ」です。奄美群島の各島々で地元の中高生が戦前生まれの語り部の方々に、復帰運動や米軍統治下の生活などを直接尋ねる映像が流された後、各島を代表する生徒達が、「今の私は、当時復帰運動を行った人たちや家族の支えがあって勉強や部活動に励むことができている。」「復帰の歴史を風化させず語り継ぐことが私たちの責務。」「この歴史ある島に生まれたことを誇りに思う。」など先人への感謝の思いと将来への思いを込めたメッセージを披露しました。



このほかにも、奄美高校郷土芸能部や元ちとせさんによる「語りつくこと」の歌唱や、群島内各島々の唄者などのアトラクションがあり、最後は、中孝介さんなど総勢12名が「懐かしい未来へ」を歌い上げ、フィナーレにふさわしいステージで観客を魅了しました。

我々スタッフが実際に見ることはできませんでしたが、感動的で70年の節目にふさわしい大変印象に残る式典だったようです。





また、記念式典終了後は、奄美観光ホテル4階ホールで、記念祝賀会が開催されました。約230名が参加され、こちらも会場が満杯となる中、地元唄者の前山真吾さんや平田まりなさん、徳之島の禎一馬さん、城南海さんなどによる歌が披露され、会場は盛り上がりました。



この記念式典は10年に1度の大行事ということもあり、事務局の奄美群島広域事務組合が中心になって、大島支庁も連携しながら昨年度から準備に当たって参りました。また、当日の運営に当たっては、群島内市町村職員のほか、大島支庁からも延べ約40名のスタッフが、来賓対応業務に従事しました。直前まで準備がおぼつかない中ではありましたが、動員職員の皆様の御協力の下、無事に式典・祝賀会を終えることができました。御協力いただいた職員の皆様には、改めて感謝申し上げます。



## 11月は「児童虐待防止推進月間」です。

大島支庁地域保健福祉課児童福祉係 主事 石山 絵理

児童虐待は、子どもの生命に危険を及ぼすだけでなく、心にも深い傷を残すことになり、長期間の支援を要することがあります。

子どもの成長と発達を支援できるように社会全体の責任として、私たち一人ひとりが、児童虐待問題についての理解を一層深め、主体的に関わりを持てるように意識啓発を図ることが児童虐待の防止につながります。

この社会的関心の喚起を図る取組として、児童虐待防止法が施行された11月を「児童虐待防止推進月間」とし、オレンジリボンキャンペーン(オレンジリボンツリーの設置等)を実施しています。

### 【児童虐待とは】

- ・身体的虐待 殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる、首を絞める、縄などにより一室に拘束する など
- ・性的虐待 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、ポルノグラフィの被写体にする など
- ・ネグレクト 家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など
- ・心理的虐待 言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(ドメスティック・バイオレンス:DV)、きょうだいに虐待行為を行う など

### 【鹿児島県の状況】

2022年度に県の児童相談所が認定した児童虐待の認定件数は2,423件で、前年度の2,114件よりも309件増加しています。

なかでも、特に多いのは心理的虐待(こどもの目の前で家族に対して暴力を振るう行為を含む)であり、2022年度は1,790件と虐待認定件数全体の7割以上を占めています。

### 【問合せ先】

児童相談所虐待対応ダイヤル:189(いちはやく)

- \*連絡は匿名でも可能です。
- \*連絡者や連絡内容に関する秘密は守られます。
- \*一部のIP電話からはつながりません。
- \*通話料は無料です。

### 【鹿児島県の虐待相談窓口】

- ・市町村の児童家庭相談窓口
- ・県の児童相談所(大島児童相談所)
- ・大島支庁 など



あなたの周りに「気になる子ども」はいませんか？  
あなたの一報で救われる子どもがいるかもしれません。

**さとうきびの生産振興に向け、さとうきび勉強会を開催**  
大島支庁徳之島事務所農業普及課経営普及係 技術専門員 若志 信博



9月27日、徳之島さとうきび生産対策本部主催の「徳之島さとうきび勉強会」が徳之島町で開催され、町、町議会、糖業振興会、共済組合、県、農協、南西糖業、ハーベスタ連絡協議会、輸送組合、JAさとうきび部会などの関係者約50人が参加しました。

勉強会では、はじめに徳之島のさとうきび生産状況(①さとうきび生産実績、②さとうきび農家の状況、③面積拡大が難しい状況、④デトラッシャー運営組合の状況等)と南西糖業の操業状況の現状と課題について発表が行われました。

その後、意見交換が行われ、生産量の確保と農家の規模拡大等の課題解決に向け、前向きな意見が多く出されました。

徳之島農業の基幹作物であるさとうきびのより一層の振興に向け、関係者一丸となって取り組んでいきたいです。

## 祈り 踊り継ぐ 与論の十五夜踊

大島支庁総務企画課地域振興係 主事 小濱 舞



9月29日(旧暦8月15日)に、与論町の与論城跡で行われた国指定重要無形民俗文化財「与論十五夜踊」を見学しました！

与論十五夜踊は、室町時代から続く嶋中安穩・五穀豊穰・無病息災を祈る祭事で、毎年旧暦の3月・8月・10月の十五夜に、与論城跡の地主(とこぬし)神社の境内にて奉納されます。今年でなんと462年を迎えるそうです！

踊り手は、二番組と一番組に分かれており、二番組から交互に演目を奉納します。

二番組は、座元・旗振り・太鼓打ち・歌あぎ・手引き・踊り子7名の計12名にて構成されます。一番組は、座元を含めて一人一役の計13名にて構成されます。どちらも踊り手は男性が努め、代々世襲制を主体にしております。

【二番組】



【一番組】



【一度いふて(いちどいうて・扇踊り)】

二番組の演目は、与論島内・奄美群島・琉球の芸能を取り入れた奄美・琉球風の手踊り・扇踊りで、優雅で美しい所作が見所です。踊り手は、紺染めの着物に、頭にシュパと呼ばれる長い木綿の布を巻いて、顔を覆っています。それぞれが違った色のシュパを身につけているため、カラフルで華やかに感じられました。また、室町時代の日本語と与論の方言が混ざった恋や自然を謳いあげた唄は、太鼓の音と調和し、心地よく惹きつけられました。



### 【長刀(なぎなた)】



一番組の演目は、能・狂言を取り入れた大和・本土風のせりふ劇と歌踊りからなっており、力強い踊りと滑稽な仕草が特徴です。踊り手は、白の袴に黒の足袋を身につけ、役によってお面を被ったり、シュパと呼ばれる頭巾を被ったりといった衣装でした。一番組のせりふも、室町時代の日本語と与論の方言がまざった言葉で、聞いて理解するのは難しかったですが、仕草や動きで物語をなんとなく想像することができました。また、滑稽な動きで、会場から笑いが起こることもありました！

### 【獅子舞】

事前の知識なく、見学した与論十五夜踊でしたが、異なる衣装や演目から、各地(与論島内・奄美群島・琉球・大和)の芸能の特色が入り交じって残った珍しい伝統芸能であることを痛感しました。また、「獅子舞」や「綱引き」もあり、獅子舞にかまれたり、綱引きで切れたわらで互いをたたき合ったりして、厄をはらいました。最後には、観客全員で輪になって踊る「六十節」も行われ、境内に散らばったわらを片手に振り回しながら、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができました☆彡



### 【六十節】

奄美群島には、特色ある魅力的な伝統行事(伝統芸能)がたくさんあります！

みなさんもぜひ現地で味わってみてください！

素敵なお写真は、商工観光係の納山係長から提供いただきました。



## 日本ジオパークを目指す喜界島で事務所職員による低山登山を実施！

大島支庁喜界事務所 次長兼総務係長 田中 正一

日本ジオパーク認定を目指している喜界町においては、「喜界島ジオパーク(構想)ロゴマーク」を決定し、去る10月5日にお披露目式が開催されました。

そこで10月14日(土)に喜界事務所の職員有志17名で、隆起サンゴ礁の島「喜界島」の大地の段丘を体感するため、登山を決行してきました。

場所は、島の東部中央の嘉鈍集落から「百之台地(標高200m)」までの道のり、通称「七十七曲り」です。

「七十七曲り」は、急峻な山道ですが、現在赤連集落にある喜界高校が、当時島の西部中央の坂嶺集落にあった頃に、島の東部集落の学生は最短距離の通学路として、また、農耕馬が往来する生活道路として昭和30年代まで利用されていたそうです。

登山当日は天気も上々で、前週の大雨(警報にまで至った)の影響による倒木等もほとんどなく、参加者は心地よい汗をかきながら、約50分間をかけて登頂しました。

「七十七曲り」は山道の曲り角が七十七箇所あることから付けられた名称であると思われませんが、看板には別名「九十九曲り」とも記されているとおり、途中正規ルートを外れないようルートを示す枝に結ばれたビニールテープを一生懸命探しながら登ったこともあり、正に九十九曲り登山となりました。(汗)

登頂後は新奄美十景の一つ「百之台(標高203m)」の展望所に移動し、さわやかな秋の青空の下、各自持参した弁当を広げ、車座になって職員間の親睦を深めました。



## チームあまみOh!島の挑戦

### 「奄美大島における課題解決に向けた大学の設立について」

大島支庁建設課道路建設係 土木技師 立野大地

大島支庁林務水産課水産係 主査 丸山貴志

大島支庁健康企画課健康増進係 保健技師 岡元麻結

## 1 地域共創企画研修について

現在我々は「地域共創企画研修」に取り組んでいます。「地域振興局・支庁単位で県及び市町村の若手職員がチームを編成し、地域課題の解決に向けた企画立案を実施する」そんな研修に大島支庁の代表として集まったのは県3名、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町から各1名ずつの計7名。主査に保健技師、土木技師と多様な職種のメンバーが揃いました。この研修は1年を通して行われ、現在も定期的に集まり奄美大島の課題解決に向け奮闘しています。そんな我々「チームあまみOh!島」のこれまでの活動を紹介したいと思います。

#### 政策形成実践コース「地域共創企画研修」概要

**概要**

主に若手職員を中心とした政策形成能力の向上を図るため、地域課題に直結する研修テーマを設定し、その解決に向けた企画立案などを実施する職員提案型の企画研修(地域振興局・支庁単位で市町村職員との合同チームにより実施)

**チーム編成**

各地域振興局・支庁において、局・支庁職員及び市町村職員の6名程度でチームを編成し、研修活動を行う。

【1チームあたりのメンバー構成例(民間企業・NPO法人等を含む場合)】

組織	人数	対象者
各地域振興局・支庁の職員	2	局・支庁長が推薦する係長以下の職員(事務・技術を問わず)
市町村の職員	2	市内の市町村長が推薦する係長以下の職員(事務・技術を問わず)
民間企業・NPO法人等	2	局・支庁及び市町村において声かけ先を決定し、チームへの参加を依頼

※必要に応じて、メンバーの中に民間企業・NPO法人等を加えることも可能

**学習推進**

旅費(キャンプフェスタ、政府フィールドワーク、チームミーティング等)※市町村、民間企業・NPO法人等には外務係が支払い、経費費(印刷費web2.0等)を人事課で措置

#### 政策形成実践コース「地域共創企画研修」実施体制イメージ

全体イメージ

(一財)地域活性化センター

県庁 県民局 支庁 市町村 民間企業・NPO等

全7チーム(各6名程度)

各地域の課題に基づくテーマを設定(例)

1. 観光振興(「マイコンワーキング」)
2. 農林水産(「特産品を生かした」)
3. ...
7. 大島チーム「ワーキング」

【実施活動】

- ① 課題整理
- ② 企画立案
- ③ 参加促進
- ④ 解決策立案

※ 県内ネットワーク  
・ 県民局等web2.0活用  
・ 民間企業・NPO法人等web2.0活用

※ 県外先進自治体等  
※ 民間web

## 2 研修テーマの設定・奄美大島の地域課題とは

まず、最初に行ったのは地域課題に直結するテーマの設定でした。現在の奄美大島の地域課題とは何か。奄美大島内の4町村職員がメンバーである我々は各町村ごとの課題を挙げ、整理してみました。すると、どこの町村も同じような課題を抱えていることが分かりました。「人材不足」「伝統産業・伝統文化の担い手不足」「若年世代の島外流出」…等々、どの課題にも共通するのは人口減少、少子高齢化による問題だということです。

昭和30年代では約20万人だった島内人口は令和2年度には約10万人と半数程に減り、高校卒業後に約9割が島外に進学・就職するという現状は深刻であり、様々な問題の要因となっています。そこで、我々が地域課題の解決に向けて当初設定した研修テーマは「交流人口の拡大に向けて」です。少子高齢化や島内に子育て世代の若者が少ない現状を解決するには、島内の子供たちを島に留めるのではなく、より多くの島外の若者に島を訪れて貰い、交流人口を拡大することが解決策になると考えたのです。このテーマに沿い、一時的な観光ではなく居住する若者を継続的に確保するにはどうしたら良いか、議論を重ねた結果より具体的なテーマにたどり着きました。それが「奄美大島における課題解決に向けた大学の設立について」です。

奄美大島における課題解決に向けた大学の設立について		研修テーマ		
人口減少に伴う地域の伝統文化の担い手不足や経済の衰退への課題に対し、「大学の設立」という観点からその効果や可能性を探ることにより、地域課題解決に向けた方策を学ぶ。		研修先	研修・視察内容	
研修の必要性 (現状・課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少(S30:約20万人→R2:約10万人)</li> <li>奄美大島においては、高齢化率(約70%)が島外に準ずる程度であることが、人口減少の大きな要因となっている。</li> <li>人口減少に伴う人手不足、固有の文化等の担い手不足が懸念される。</li> <li>高等教育機関(大学)がない、仕事がない等、居住人口の増大を阻む要素が多い。</li> <li>大学の設立により、若者の地元への定着、島外からの若者の流入が期待される。</li> </ul>	№	研修先(案)	内容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に奄美大島総合戦略推進本部が実施した奄美大島大学設立等可能性調査等について学ぶ。</li> <li>調査当時の状況と現在の状況を比較し、課題解決に向けた新たな可能性や効果を探る。</li> </ul>	1	奄美市企画調整課(奄美大島総合戦略推進本部)	有識者ヒア(対面)
研修における着眼点	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関(大学)がない、仕事がない等、居住人口の増大を阻む要素が多い。</li> <li>大学の設立により、若者の地元への定着、島外からの若者の流入が期待される。</li> </ul>	2	有識者会議(勝眞一郎・鹿兒島県DX推進アドバイザー)	有識者ヒア(対面)
想定する成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関の設置・誘致に向けた課題、可能性等を整理し、高等教育機関の設置が人口減少に起因する課題の解消や地域活性化につながるかの検討材料となる。</li> </ul>	3	芝浦工業大学	有識者ヒア(Web)
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>大島支庁 健康企画課 保健指導 阿元 倫博</li> <li>健康企画課 主任 石川 貴成(連絡担当)</li> <li>建設課 土木技師 立野 大地(代表者)</li> <li>大島村 企画観光課 主任 内村 健樹</li> <li>建設課 主任 内村 健樹</li> <li>手塚村 企画課 主任 中川 成宗</li> <li>瀬戸内町 企画課 主任 長谷川 涼太郎</li> <li>龍郷町 企画観光課 主任 長谷川 涼太郎</li> </ul>	4	宝塚医療大学	先進事例ヒア(Web)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>大島支庁または首内市町村</li></ul>	定例打ち合わせ	5
		6	大島支庁または首内市町村	定例打ち合わせ
		旅費	報償費	
		(その他)	大島支庁または首内市町村	【研修メニュー(定例打ち合わせ)】(R5.6月～R6.2月) ・ 実践活動期間において、対面で行う。(計20回予定)
			（その他） キックオフセミナー 中間報告・成果報告への参加	・ R5.6.8に市町村自治会館にて開催された「令和5年度「地域共創企画研修」」に参加 ・ 実践活動中に開催予定の中間報告会(Web開催)及びR6.2月中旬に開催予定の成果報告会に参加

### 3 奄美大島の大学設立に向けて

大学の設立が実現すれば、全国もしくは全世界から継続的に一定数の若者が定住することや、アルバイトの確保による人材不足の改善、若い世代に奄美の伝統や魅力を知ってもらうための機会の提供など様々なメリットが見込めます。

奄美大島に大学を設立すると聞いて突拍子もない話だと思ったかもしれませんが、平成28年には奄美大島5市町で構成する奄美大島総合戦略推進本部(事務局:奄美市企画調整課)が「奄美大島大学設立可能性調査」を実施しており、奄美大島大学設立等可能性調査有識者会議が平成30年に「共同キャンパスの設置」と「国や県、市町村が協力した奄美群島への国際大学設立推進」を答申するなど、実際に大学設立に向けた動きもあります。また沖縄県宮古島市が大学等のキャンパス誘致を推進し、宝塚医療大学観光学部が令和5年4月から全寮制キャンパスを設置するなど離島の大学誘致を実現した事例もあります。

これらを踏まえ、我々の研修でも奄美大島大学設立等可能性調査有識者会議の座長を務めた勝眞一郎氏にヒアリングを行うなど、大学設立の可能性を探っています。目指す方向性として新たに4年制大学を設置するだけでなく、共同キャンパスの実現や一部キャンパス(学部)のみの誘致など多様な形を視野に検討を重ねているところです。

また、交流人口の拡大を目的とした大学誘致であるため、島外から多くの学生に来てもらうには奄美大島で学ぶことの意味、メリットの整理は不可欠です。多種多様な生物・固有種を有し、世界自然遺産の島であるということはもちろん、観光産業や伝統文化など、奄美大島だからこそ学べる、体験できるという強みを生かした大学を目指したいです。

### 4 今後の活動

大学設立に向けより実現可能な形を探っていますがまだまだ途中段階であり、結論には至っていません。今後は実際に離島への大学誘致を成功させた沖縄県宮古島市や宝塚医療大学等へのヒアリングを予定しており、具体的な方法を検討します。

企画研修として取り組んでいる大学設立という立案ですが、いつの日か実際に県と地元市町村が一体となって事業化することを夢見て、チームあまみOh!島の挑戦は続きます。

## 知っておきたい！デジタル社会を生きる消費生活術

大島消費生活相談所 主査 中島 智代



消費者庁 消費者ホットライン188  
イメージキャラクター「イヤヤン」

### 1 デジタル時代の支出管理

現金以外の手段で支払うキャッシュレス決済は便利ですが、現金と違って目で見て確認できないため、支出管理に留意が必要です。

昨今は、後払い決済サービスがネットショッピングなどを中心に広く利用されるようになってきています。立替払い型の後払い決済サービスや簡易に発行できる後払い決済が可能なカードは、従来のクレジットカードを所有できない若い世代の利用を可能にするものです。

一つ一つの利用は少額でも、いろいろな後払い決済サービスを利用することで債務の管理が困難になることも考えられます。後払い決済サービスの利用は、**トータルでいくら使っているのか、いつ支払うのかをしっかりと把握しておくことが大切です。**

キャッシュレス決済は、利用した際のデータが残る利点があります。利用履歴をこまめに確認することで、支出管理に役立てることができます。利用履歴の確認は、不正利用の発見にも有効です。

キャッシュレス決済のデータを**家計簿アプリ**に関連づければ、総支出額が把握できるだけでなく、自動で家計簿を作成することも可能です。ただし、クレジットカードなど一部の利用データは、反映されるまでにタイムラグがあることに気をつける必要があります。

家計簿アプリには、銀行口座と連携して毎月の収入や銀行引き落としを記録できるもの、レシートをスマホのカメラで撮影すると自動入力されるもの、収支グラフの作成機能があるものもあります。サービスはアプリによって異なるので、自分のライフスタイルにあったものを選びましょう。

気軽に始めたい	支出を細かくチェックしたい	家計を徹底的に管理したい
<b>簡単系アプリ</b>	<b>機能系アプリ</b>	<b>高機能系アプリ</b>
 らくな家計簿	 レシーピ！	 Zaim
 かけ〜ば	 おカネレコ	 Dr.Wallet
 毎日常計簿	 bookeep	 マネー フォワード
 Zeny		 Moneytree
 おとなの おこづかい帳		
 カケイ		

### 3 ネット広告のしくみを知る 〈ターゲティング広告のしくみ〉



どのウェブサイトを見たかといったネットの閲覧履歴のクッキー(Cookie)と呼ばれる情報から、消費者の興味や関心を推測し配信されるネット広告は、「ターゲティング広告」と呼ばれています。ネットを利用した消費者の年齢、性別、居住地域等の属性や、これまでのネット上の行動パターン、閲覧履歴から、ターゲットを絞り込んだうえで消費者に広告が配信されています。

また、一度訪れた消費者を逃がさないように、ウェブサイトを離れた後もクッキーを目印として消費者を追跡し、その消費者が見ている別のウェブサイトの広告枠に同じ広告を表示させるネット広告もあり、「リターゲティング広告」と呼ばれています。このように消費者個人をターゲットとして追跡し配信されるので、同じ広告を頻繁に目にすることが起こっています。

#### 〈アフィリエイト広告の問題点〉

「アフィリエイト広告」とは、個人のウェブサイトやブログなどに掲載されている商品やサービスの購入を促す広告です。消費者が、アフィリエイト広告をクリックして商品を購入すると、広告を掲載したウェブサイトの運営者(アフィリエイト)に、広告主の企業から報酬が支払われるしくみで、成果報酬型広告と呼ばれています。アフィリエイトは、購入などの成果がないと報酬につながらず、商品が売れば売ただけもうかる歩合制のため、消費者の関心を引くように、**事実と異なる大げさな広告や、架空の広告を出している**ケースもあり、注意が必要です。ウェブサイトやブログの情報をうのみにすることなく、内容について疑問に思ったら、公式サイトや信頼できる情報と照らし合わせて掲載内容を吟味し、慎重に検討しましょう。

### 4 暗号資産でもうかるはずが・・・

SNSやマッチングアプリ等で知り合った相手から暗号資産の投資を勧められた際は、詐欺的な投資話を疑ってください。相手の素性、投資内容等の真偽の確認は難しく、トラブルになっても**支払ったお金を回収することは困難**です。

友人や知人から暗号資産の投資を勧められた際は、**人間関係と投資を切り分けて冷静に判断**してください。

海外業者のサイトやアプリでトラブルになっているケースが目立ちます。海外の事業者であっても、日本の居住者に対して暗号資産交換業を行う場合は、金融庁(財務局)への登録が必要です。取引前に必ず金融庁のウェブサイトでの登録の有無を確認し、無登録業者とは取引しないでください。



《 発 行 》

大島支庁総務企画部総務企画課

TEL:0997-57-7212

E-mail:osima-soumu@pref.kagoshima.lg.jp